

第45回 雲南懇話会 2018年7月7日(土)

at 東京慈恵会医科大学 1号館6階講堂

「河口慧海の足跡を辿って」

～かつての王国ムスタンと聖地ドルポ～

稲葉 香

り。かくの如き険路を上る一里余にして、山腹の雪に足を入れて越へ行くたれ
 に雪なき所は岩と砂なり。雪中は案内者の足を下せし跡に足を入れて越へ行くたれ
 ども、時としては案内者も仆れ、余もまた雪上に転ず。しかれども雪の大いなる憂
 ははなはだ危険ならざるなり。そは坂路やや緩にしてただちに千仞の溪に落つる憂
 ひなければなり。しかして雪光と日光との相射は眼を痛ましむることにはなはだしき
 のみならず、空気稀薄にして呼吸のなしがたきに、危険なる坂路を行くが故に、胸
 の動気は激しく打ちて、呼吸は蒸気機関の発煙するに似たり。頭脳煩悶して脑中発
 火せるが如し。わづかに雪水を口に湿して進むといへども時々昏倒せんとす。加之
 に持病のリユマチス足痛烈しく発してほとんど進行することを得ず。雪中に臥すべ
 き便もなければ、案内者の言に従ひて行くに、下り坂に来て、その危険我が生命あ
 るを覚へず。山腹は雪崩のため道なき砂路を進むに、時に砂車のため深谷に落
 ちんとするを、剣楯を持ちて身を捧ささげること、あたかも荒波中小舟に乗りて櫂かいを使ふ
 如し。その熟練巧妙、我ながら驚くばかりなり。しかるに、ここに最も困難を感ぜ
 しは、リユマチスのため左足の痛苦はなはだしきと、創杖棒を使ふ手の痛み激しき
 と、身軀疲労しほとんど進むこと能はず。ある平坦へいたんなる岩上に仆れて臥す。案内者
 水を汲み来て与ふ。その味全く甘露の如し。やうやくにして人氣を得し心地せり。

Dolpo



1899年5月 河口慧海が10ヶ月滞在したツアーラン



photo by kaori inaba

当時、
3人体制でお寺を守っていた。



- ・ ラマ・ドルジェ
- ・ ラマ・ジャムヤン
- ・ ラマ・ニェンダク

しかし、今は2体しかなかった。

ཀླུ་གཙུག་ལྷན་ཁྲིམས།
HIMALAYAN SHOP
Run by the students of Tserang Dorje Dhen Monastic School
Lo, Tserang Mustang, Nepal

འཕྲིན་གྲུབ་ལྷན་ཁྲིམས་
ཡུལ་ལྷན་ཁྲིམས་

PEW
HIMALAYAN

འཕྲིན་གྲུབ་ལྷན་ཁྲིམས་
ཡུལ་ལྷན་ཁྲིམས་

འཕྲིན་གྲུབ་ལྷན་ཁྲིམས་
ཡུལ་ལྷན་ཁྲིམས་

photo by kaori inaba

慧海が泊まったと

思われる家



Photo by kaori inaba

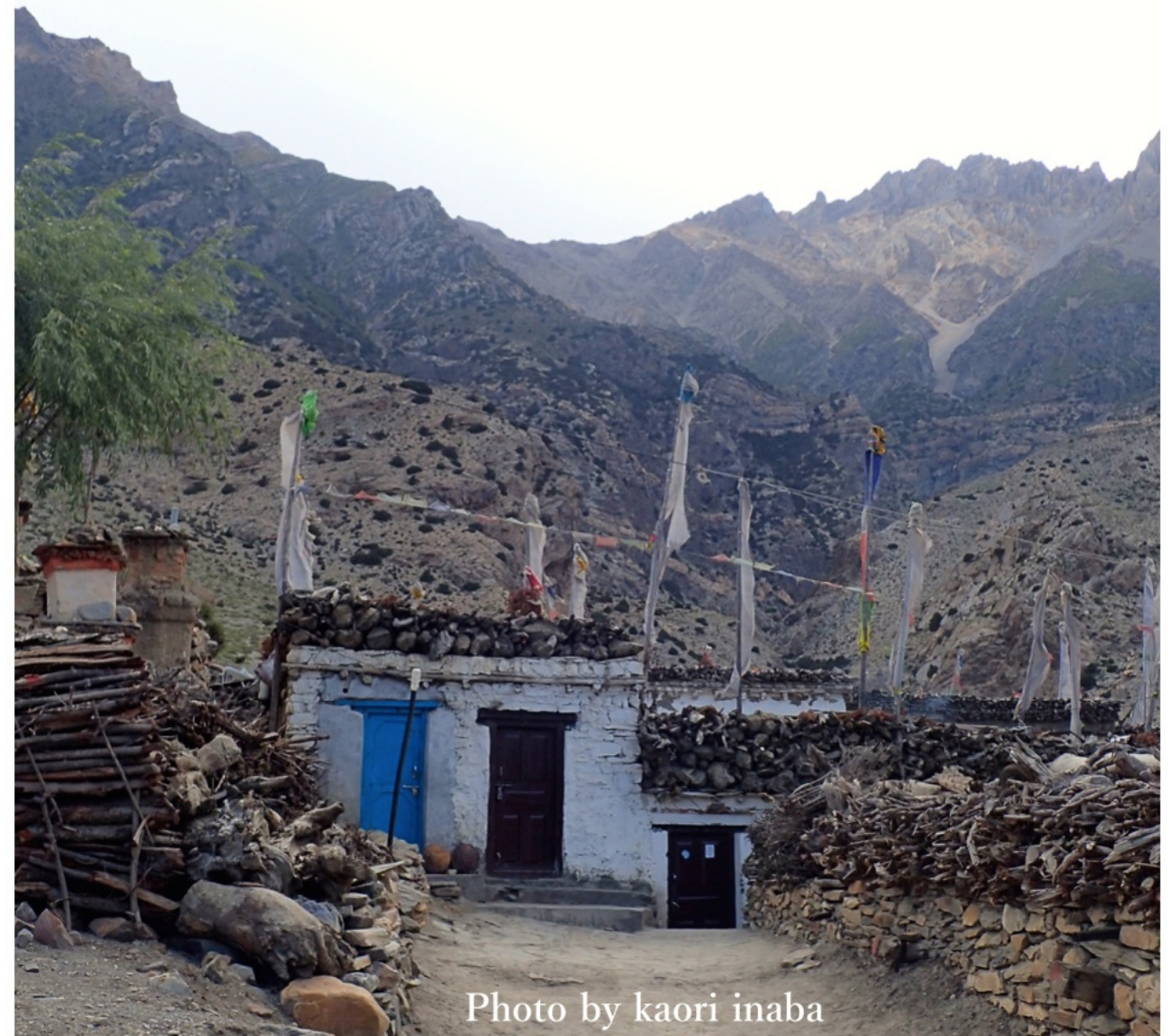


Photo by kaori inaba

ダンガルゾン

百丈余の橋は、実際には
河床から10丈 (23m)

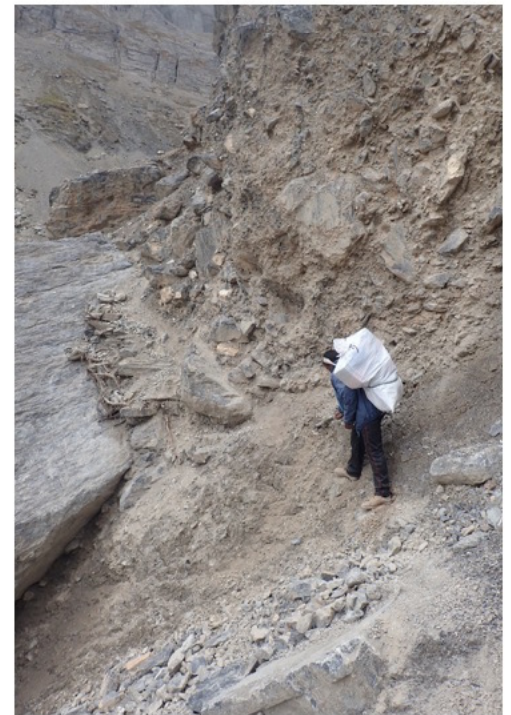


1900年6月18日

慧海は、8時発～17時着 (9時間)

サンダ～タシータン～ベロルカルカ

photo by kaori inaba



1900年6月18日

Tashikang North 6403m & South 6386m

Tasartse
6343m

Tashikang II 6119m



トルボの玄関口

ツアルカに逗留

1900年6月20日~22日



1958年

Photo by 西北ネパール学術探検隊



2016年

Photo by kaori inaba





1958年



2016年





Photo by kaori inaba

ツアルカ ポン教のお寺



2016年
1958年



Photo by 西北ネパール学術探検隊





1900年6月22日 モー・ラ (5027m) を超えて眼鏡池



photo by kaori inaba

6月22日カジャンで宿る

23日目 水多く橋なし



6月25日 17日目

テインキュー～シーメン

マニ石が2km



パンザンコーラ

photo by kaori uaba



シーメン



コマン

26日 シーメン6時半出発、コマンを通りナムド着



コマン・ラ



ナムド

photo by kaori inaba

シェー山（水晶山）

6月30日周回巡礼

22日目





シェー山周回巡礼



photo by kaori inaba

7月1~2日 サルダン



パチュンハム (6529m)



セラ・ラから (5093m)



ヤンチェルゴンパに立ち寄らず
7月3日 国境目指してクンコーラへ



photo by kaori inaba

23日目 国境手前で宿る

非時食戒を守る





室内者有負ルテ渡ルキ左七時半ニ開キタル路邊ニ
 着イテ水ヲ飲ンテ盥ニ臥ス我等ノ為ニ茶ヲ煮ルル能ハ
 ガルナリ少頃ニシテ入アリ東ヲ登テ由テ或モスルヲ得シ
 處名山ハ(013ヤ)山脈中ノ奇巖聳テ聖リシ巖ナラン其巖
 粹信仰ノ具レキハ純真佛教ノ義ニ非ズシテ偽似佛造
 即チ自然崇拜教ノ意ニ非レバナリ余ハ此巖ノ崇材ニ留ム
 ヲ信シテ其巖ヲ觸ム外ナカキ唯ク余ノ得ル所ハ高き
 上ニ上リ四方ヲ眺シテ三顆ノ星ヲ高唱セシム事ハ此
 處ニ在リテ一感セシメタリ行程十里
 四七月一日ニ月六日ニ日六時ヲ有ニ將ニセガルベカラカク
 跋ニ下ト相シテ全英人等ハ印度人等ノ風説流行
 して西ニ進行ニ要路ヲ閉塞セラレトノ樹余アルハ
 難ナリキニモテ余等ハ此處前より支路ヲ上ル最モ是
 ナリヤシク是ノ路ニ至リ一里半ヲ至リテ元路ヨリ離
 レテ東北ニ登ル山脈ヲ行ク一里半ニテテ流石ノ形跡
 見ル(ナムゴ)ト云フ清流多シク上リ行クテ水量ニシテ
 頗クシテ表類流トテ其ノ際ニ瀑ノ名ニ山下ニ瀑
 ナレトス雖モ下ルルテ三里全ニテ右ノ時前一ノ涼水ノ
 清キ見
 着テ名ノ後ガノ名ニ吹茶流経リテ射ス
 四七月二日六月十日夜涼甚ク暑ク火燄製粉製造ノ爲ニ到留
 所前四時迄三時ヨリ注シテ不其他ノ資ヲ悉ク休息ス
 四七月三日六月八日朝七時立シテ東北ニ流シヤル大溪流ニ
 下リ行ク三里全ニテテ流ハ(シヤ)東谷ヨリ下ル大溪流ニ

入ルテシテ前ニ橋アリ東ニ渡リテ(ゲンギエ)河ノ南岸ヲ東ニ行ク
 一里半ニシテ(ゲンギエ)河ヲシテ渡ル橋ハ危險ナリ橋ハ
 アリ中橋ニ尺木ヲ以テ製セシト岩ト岩ト懸レリ渡リテ北岸ヲ
 東ニ上ル橋一里ニシテ河水ニテ大流ニテ水量多シク
 行ク半里ニシテ大寺アリ橋ハ(ヤヤタル)ト云フ其ノ上リ
 テ下ル半里全ニシテ北方ウシク東ヨリ下ル大流ニ添フテ
 シク東ニ上ル一里半

7月3日削除

4日削除

北ノ山中ニ暑極テ上ル雪ヲ踏ミ岩ヲ渡リテ上ル一里
 半ニシテ金沙ノ溪ニ雪間ノ溪流ニテテ大流ニテ水量多シク
 北方ニ雪中上リ一里ニシテ雪巴利ト云フト云フ其ノ上リ



1900年7月3日、4日
 慧海日記 ヤクの文字

photo by kaori inaba

1900年7月4日26日目

ネパールとチベットの国境 クン・ラ(5411m)



photo by katri inaba

仁広池 と 慧海池



photo by kaori inaba

エメルンカン山頂より・ネパール側 (6028m)



photo by kaori maba

エメルンカン山頂より（6028m）チベット側



photo by kaoru iijima

Photo by kaori inaba



Kanchauni lek 6444m



Tsokarpokang 6588m



Kanjiroba 6883m



Dhaulagiri I 8172m



Kang Tega 6060m

Photo by kaori inaba



Gyang Dzong Kang 6123m



Pachug Ham 6529m



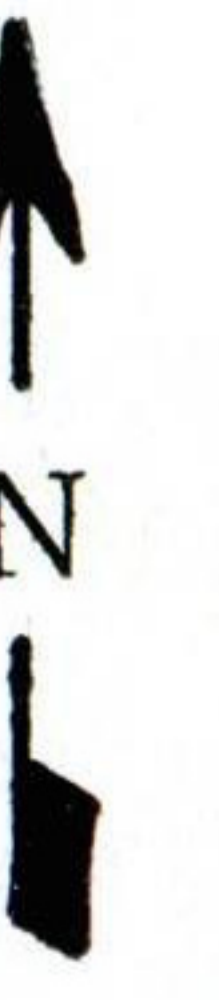
Norbukang 6085m



Phtha Hiunchuli 7264m



Dhaulagiri I . II . III . IV . V .



TIBET

NEPAL

DOLPO

MUSTANG

パンザン・コーラ

イエメルンカン

クン・ラ

ニサル

シーメン

サルダン

シェーゴンパ

コマ

ティンキュー

ナムドゥ

ナムグン

シェー山

Kanjiroba (カンジェラルワ) Δ6612

ドルポ

モー・ラ

ツアルカ

ツァーラン

バルブン・コーラ

タシーン・ラ

タシータン

カリ・ガン

Chhedu Gumba (サンドゥル)

Kakkotgaun (カコット)

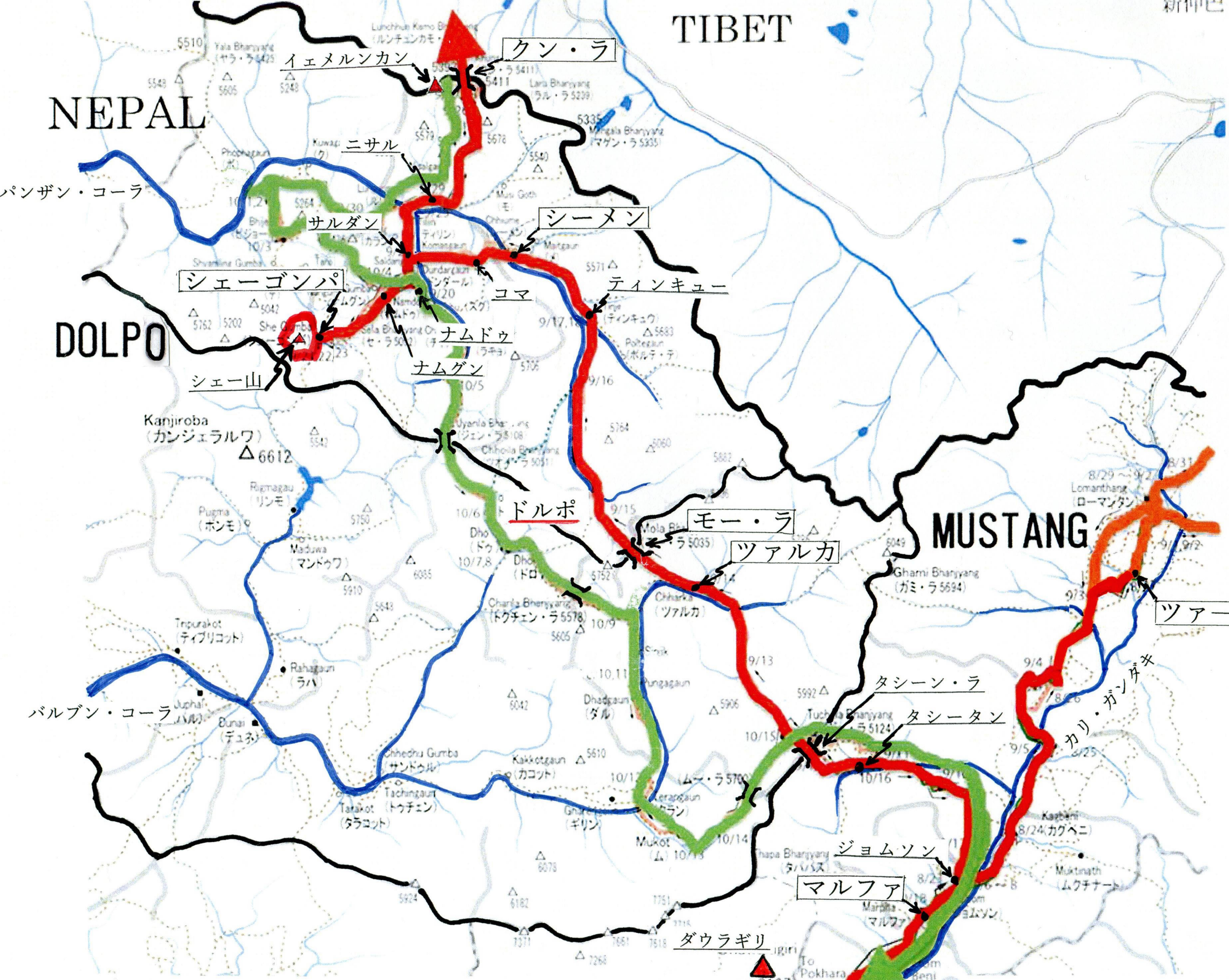
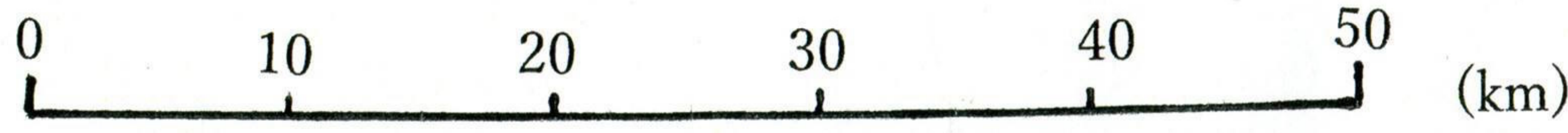
Maragaun (マラガ)

ジョムソン

マルファ

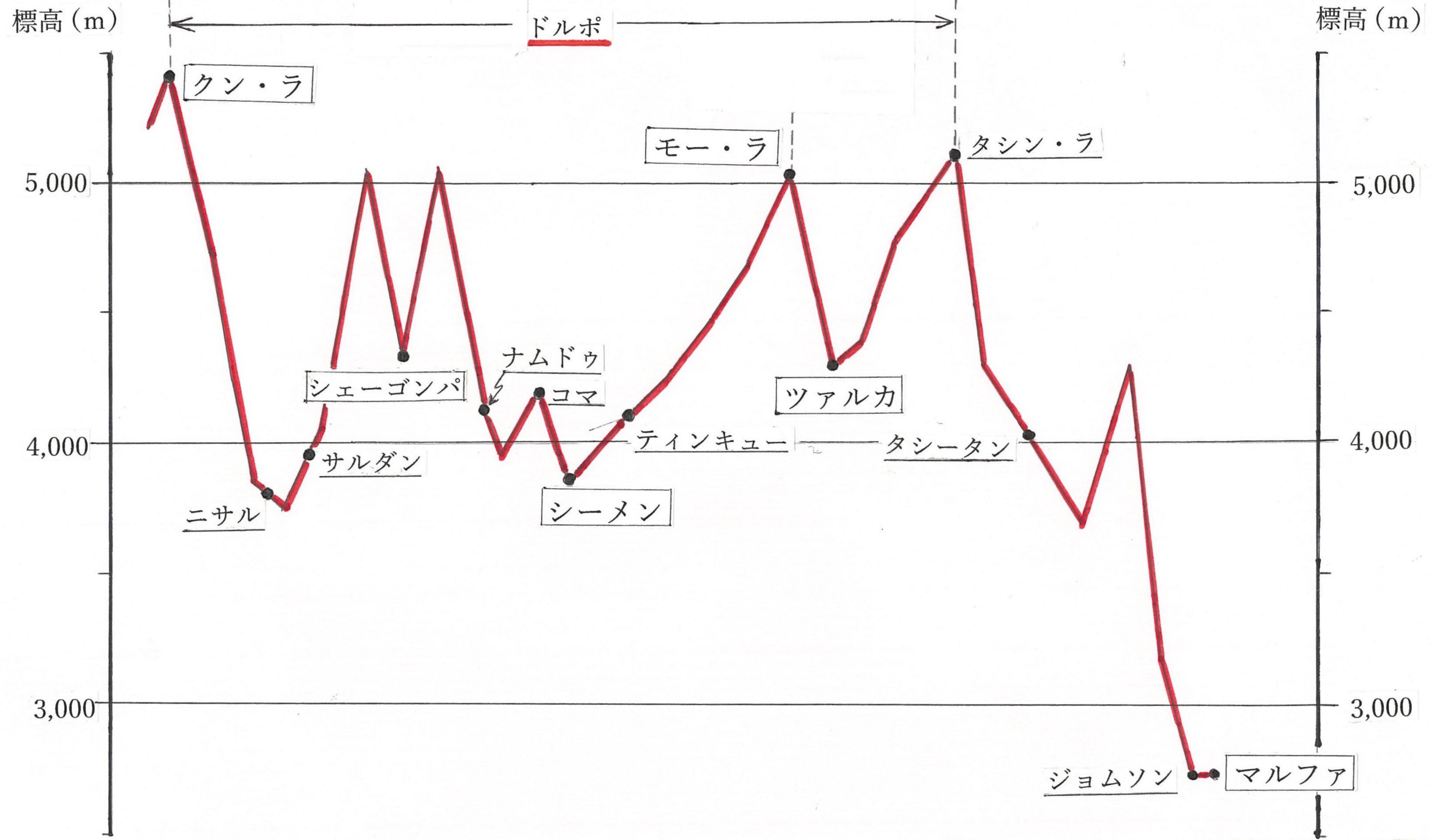
ダウラギリ

河口慧海のヒマラヤ越え



NW ←

→ SE



河口慧海のヒマラヤ越え断面図